

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第15号 令和2年10月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9408 (直通)

武蔵野市農業委員会 会長あいさつ

令和2年7月20日開催の武蔵野市農業委員会通常総会において、会長に選出されました。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今回は新型コロナウイルス感染症渦中に委員の交代となりました。全国的に農業は打撃を受けている報道が多い中ではございますが、安全・安心な農産物を供給し続けるために、市内農業者も奮闘しております。

令和4年には多くの生産緑地が指定から30年目を迎えます。武蔵野市では既にほとんどの農業者の方が特定生産緑地指定の意向を示されており、営農に取り組むことにより、貴重な農地が保全されていくことを大変嬉しく存じます。

ここ数年で都市農業を取り巻く環境は著しく変化しています。関係機関と連携し、市民の皆様とコミュニケーションを図りながら、武蔵野市の農業振興に努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



武蔵野市農業委員会 会長 榎本 一宏

新農業委員紹介

任期：令和2年7月20日～令和5年7月19日

農業委員の任期満了に伴い、7月20日に新たな委員が任命されました。



田中 恒男
会長職務代理者(吉祥寺)



榎本 英明
(西窪)



松本 正人
(吉祥寺)



後藤 幸治
(境西部)



船木 忠秋
(境南部)



田邊 安輝子
(公募)



櫻井 義則
(関前)



北沢 俊春
(公募)



下田 誠一
(境東部)



坂本 和人
(関前)



大坂 新一
(JA)



齋藤 久枝
(公募)



大谷 壽子
(公募)

私たちはこんな活動をしています

- ・法令業務
- ・農地等の利用の最適化の推進
- ・農業経営の合理化や法人化の推進
- ・調査活動
- ・情報提供活動

コロナに負けない！武蔵野市の農業

令和2年は年頭より新型コロナウイルス感染症の流行により、学校休校や相次ぐイベントの中止などで、一時は農作物の販路が絶たれる緊急事態となりましたが、関係者の知恵と工夫で何とか窮地を免れることが出来ました。

例年「青空市」と同時開催してきた「農産物品評会」も中止となり、コロナ禍の農業者にとっては大きな打撃となりましたが、「自粛期間中は日頃より多く畑に出られた！」「直売所には沢山の市民の方が来てくれた！」など武蔵野農業者はコロナに負けず、安全・安心な農産物を市民の皆様届けたいという一心で、元気に頑張っています。市内農業者を代表して6地域（市内農家戸数68戸）の組合長さんの様子を紹介します。

吉祥寺農業生産組合
田中 宏茂 組合長



関前生産組合
榎本 満弘 組合長



境西部農業生産組合
高橋 宏明 組合長



西窪農業生産組合
榎本 正孝 組合長



境東部農業生産組合
高橋 億吉 組合長



境南部農業生産組合
船木 悦郎 組合長



R2 新規

都市型認定農業者を募集しています

令和2年度より認定農業者制度に準ずる市の制度が開始されました。面積に応じた目標所得に向けて経営の改善を目指し、武蔵野市の農業振興や農地保全につなげる事業です。比較的面積が小さい農業者でも目指すことができますので、事務局までご相談ください。

Point

気軽にご相談ください！

- ★毎年補助が受けられます（総事業費 ×1 / 2、上限 33 万円）
- ★生産緑地の追加指定の申請ができるようになります
- ★「武蔵野市農業経営改善協議会」にて情報共有ができます

〈認定までの流れ〉



補助の対象となる事業	例
農業生産方式の改善に関する事業	管理機、ハウス、軽トラ
農業の多角化経営を推進する事業	加工施設整備
農業の経営手法を改革する事業	自動販売機、保冷库
その他農業経営の改善のために必要な事業	防草シート・ネット張替え

この他にも対象となるものがありますので、ご相談ください。



▲左から田川（事務局長）、佐々木、荒井、森、桂

武蔵野市初の 農地貸借が始まりました

都市農地の貸借の円滑化に関する法律の制定により、農業者同士等での生産緑地の貸借ができるようになりました。

武蔵野市の初の事例として、この制度を活用しているNPO法人むさしの農業ふれあい村代表の齋藤瑞枝さんにインタビューをしました。



▲NPO 法人むさしの農業ふれあい村のスタッフの皆さん

「今までまとまった農地を借りることは難しかったので、この制度のおかげで活動の幅が広がりました。畑を通じて近隣の方

や福祉施設との交流が増え、ニーズを拾い実現することで、地域に貢献できていると感じています。私たちは『都市農業を身近に』をモットーとし、農地は生産だけでなく、食育や環境問題にもつながるということを発信しています。農地は残すべき財産です。私たちは都市農業の応援団として農業振興に日々取り組んでいます。」

吉祥寺の畑でホップを収穫

東京でホップを育てようプロジェクト連携協議会によるKICHIJOJIホッププロジェクトでは、ホップ専門農家の方の指導のもと、オリジナルのホップを育成し、地域の活性化を目指しています。ホップはビールの原料となります。



▲ホップはツル性の植物なんです！

プロジェクトの第一弾として吉祥寺が選ばれ、農業ビギナーの清水さんにとっても初の挑戦となります。

8月22日に収穫、26日に醸造イベントを実施しました。吉祥寺でもホップが採れるということで、武蔵野市の新たな魅力として、注目されています。



▲収穫したホップの「毬花」

「新鮮で安全・安心な野菜はすぐそばに」 生産者の笑顔



実(みのり)さん

武蔵野市内で活躍する農家の方々をご紹介します。



豊(ゆたか)さん

櫻井 眞一さん・真二郎さん (関前5丁目在住)

3代に渡り残る柿の木と一緒に



▲左から真二郎さん、眞一さん、節子さん

眞一さんは農家の3代目。先代は野菜栽培やヤギの飼育をしていましたが、高校卒業後、植木農家で修業した眞一さんの代から植木の栽培、造園業を始めました。サツキの挿し木栽培から始め、ケヤキの大木を九州に運ぶなど日本全国を飛び回ったそうです。また、庭先や埼玉にある畑で野菜も栽培し、庭先直売で週5日(木・日休み)販売しています。

時代とともに植木も小さなものが好まれるようになり、息子の真二郎さんは果樹栽培も含めて今後色々と挑戦をしていきたいと語ってくれました。



▲昔の櫻井家全景

▼御自宅にある立派な岡崎の灯籠



中村 可奈さん (関前3丁目在住)

武蔵野初の農業女子♡



▲収穫した野菜と一緒に

美大を卒業後、ファッション界の仕事に携わり、フランスへの渡航を経験し、2年前に関前2丁目で武蔵野市初の農業女子として就農しました。

現在フレッシュ&Uターンセミナーを受講し、日々農業技術の基礎知識を学びながら、果樹と野菜作りを頑張っています。

オクラ、ミニトマトの出来栄がよかったので、来年から力を入れ、ビーツ、パクチー、パセリにも取り組みたい、と!現在SNSを活用していますが、今後はホームページを開設し、ネット販売にも挑戦したいと意気込みを熱く語ってくれました。



◀販売している野菜にはオリジナルロゴを使用しています

▶自慢のオクラ・ミニトマト・ブルーベリー



編集後記

編集委員のメンバーが新しくなりました!

この度の農業委員の交代に伴い、編集委員も一新しました。

編集委員は合計で9名おりますが、本号は5名が担当いたしました。

引き続き親しみやすい紙面作りを目指し、市民と農業者をつなぐ架け橋となるよう、PRしてまいります。

第15号発刊にあたり、関係者各位にご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。



▲左から大谷委員、櫻井副委員長、田邊委員長、田中顧問、後藤委員

特定生産緑地の申請はお済みですか!?

申請期限は令和3年3月末です。お済みでない方は、事務局までご相談ください。

特定生産緑地申請率

83%

※申請者ベースでの割合
※申請=指定ではありません